

平成 23 年度 社会福祉法人芙蓉会事業計画

法人理念

「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」

平成 23 年の始まりの出来事、タイガーマスク主人公 伊達直人を名乗る贈り物が昨年末から相次いだランドセル・文房具・サッカーボールなどを児童福祉施設に寄付する動きは、全都道府県に広がり、マスメディアなどでも様々な機会に寄附について議論されるきっかけともなりました。

フィランソロピー（社会貢献）にとって「ボランティア」と「寄附」は両論といえます。「自分が自ら行う」というのがボランティア、では寄附はというと「相手を信じて託す」行為なのだと思います。民間の社会福祉法人などが、いい夢を持ち、いい活動をしている。そうした人たちに自分の「夢」を信じて託す。こうした新しい寄附の形が今、広がりつつあります。私どもは感謝感謝です。芙蓉会では今年、みどり園のスプリンクラー設置及び大規模修繕工事、ひまわり園の奨学基金を始めます。みぎわ園は 1F 特殊浴槽を配備し、利用者に配慮したサービスを行う予定です。

地域では、急激な少子高齢化や核家族化、更には独居世帯の増加など、社会構造の急激な変化に伴う人間関係の希薄化や、家族の絆が弱体化することにより、地域の支え合いの力が衰え、また自らの事は自ら解決するという自立・自助の力が低下していることが指摘されている。そこで当法人は社会のそのような問題を法的には援助できない様々な問題を援助する方向で、出来ることから居宅サービスと共同で始めて行きたい。

法人本部

当法人は、使命と役割に沿った経営を通じて社会・地域における福祉の発展・充実に努め、地域社会との信頼性を一層深めるように推進致します。

社会的ルールへの遵守（コンプライアンス）、説明責任（アカウンタビリティ）の徹底、組織統治（ガバナンス）の確立により、良質かつ安心・安全なサービスが提供できる組織づくりを行い、社会福祉の担い手として高い信頼性を得るよう努力致します。

児童養護施設 ひまわり園

平成 23 年度は、基本目標に基づき職員の技能向上および児童養護サービス

の向上に努め、安全で安心な暮らしを子どもたちに保障し、社会的自立ならびに家族再統合に向けて、関係機関、地域、学校、保護者と連携・協働して推進します。

地域小規模児童養護施設ひろみ（児童養護施設ひまわり園加算事業）

平成 23 年度は以下の基本目標に基づき、職員の技能向上および児童養護サービスの向上に努め、安全で安心な暮らしを子どもたちに保障し、社会的自立並びに家族再統合に向けて、関係機関、地域、学校、保護者と連携・協働して事業を推進します。

乳児院恩賜記念みどり園

社会福祉法人芙蓉会創立の理念に沿い、乳幼児の人格発達における乳児期の重要性に鑑み、乳児 30 名の養育を行います。また、社会福祉法及び児童福祉法に則り、下記基本目標や実施目標を中心据え、別添資料の通り事業を進めます。特にスプリンクラーの設置と大規模修繕を実施する年となる為、子ども達の安心や安全の確保を第一に考え、昨年度より見直していると「心を育てる養育」を主眼とした、小規模グループケアの充実や、感染症対策等についても工事の実施でケアの内容が低下することがないように配慮すると共に、家庭との連絡調整を密に取り、早期家庭復帰についても充実を図ります。

特別養護老人ホーム「みぎわ園」

法人理念「隣人愛」の精神の下、地域の老人介護環境のなかで私達へ求められている事へのリサーチとご利用者一人ひとりのニーズの沿った介護支援を実践します。同時に職員の新たな介護感を養う上で「初心にかえる」とした客観性をもった介護姿勢に努めます。信頼される介護サービス提供者として地域貢献に努め、経営面においては時代の趨勢を見極めながら、平成 24 年度実施予定の「新会計基準」導入への準備を進めます。職員の資質向上、人材育成のための研修プログラムを実施し、エネルギッシュな組織づくりとチーム介護の実践を図り、QOL 向上に努めます。